

バラックの六畳の間より

本所と深川

私のバラックの六畳の間は南向きで、誠に心持の善い室である。お日様が六尺の硝子窓からボカ／＼と射し込む。机の上の書物、眼鏡、ペン、鉛筆、紙などが、それぞれ美しく浮き出してくる。

とても本所の焼け跡に出来たバラックとは考へられない位善い。

内閣が幾百万遍変らうが、何々政党が千万遍雁首を取り換へようが、そんなことは私の知つたことでは無い。私は私として、このバラックの方丈で、太陽と物語つてゐれば善い。

晩遅く、吾妻橋を東に越えて、本所に帰つてくるとその美しいこと、とても筆紙に尽すことは出来ない。まるで自然が白金プラチナで作つてあるかのやうに輝かしく見える。

私は吾妻橋に、両国橋に、私の好きな輝きを見る。(あれで厩橋はそれほど美しくない)

昼間見ると泥々に見える本所横川が、夕べになると実に美しい。まるでヴェニスに行つて居るやうだ。

時々富士が見える。被服廠跡からも富士が見える。本所横川橋の上からも富士が見える。夕なぎの澄み切つた午後五時頃、黄金色をした西の空に、紫色をした富士をみると、私の胸は躍る。

銭も、家も、名替も何も要らない。ただあの大きな大自然を見詰めていつまでもゐたい。

私はオートバイで東京市中を走り廻つて、毎夜遅く本所松倉町に帰つてくる。本所は何となく、私には親しむべき土地であるやうに考へられて来た。山の手には美しい小山、谷、森が美しく配合せられてゐるが、本所と深川とはそれが少しも無い。たゞ見すばらしい恐ろしく低い、焼トタンの家が、幾百軒となく立ち並んでゐる。然し、此処にも人間の住むべき住居があるかと思へば、新しい意味の親しみがある。

平坦な街筋の、まだ少しも修理されてゐない道路のデコボコを歩む時にも、本所には本所らしいところがある。然し何と云つても、本所深川の美しさは隅田川と横川と多くの堀の外には無い。

隅田川を渡ると、神田、日本橋と全く違つた田舎臭い感じがする。然し、それでゐて、決して下品なところの無いのが不思議である。

言葉の美しいのに、私は第一に感心させられた。同じく人を侮辱する場合であつても、決して関西で見るやうな濁音の多い『ど畜生ど狸、ど淫売、ど盗賊』などと、『ど』を連続しないで——貧民窟の子供などが、『こら風!』と人を呼んでゐるとこなど、関東人にふさはしいと、私はうれしく思つた事である。

私は十月十九日に本所松倉町にテントを張つた時には、悪戯小僧に随分困らせられたが、それらの子供らも少しく経つ中に完全に訓練せられて、うちに出入する五百名近くの子供らは、山の手の子供等よりも遥に行儀の宜い子供になつた。それに就て私は心から満足してゐる。

子供等の性質も、神戸姪合新川のそれとは全く異つてゐる。こち

らの子供は実に明るい。神戸の子供等は抑へ付けられてゐる。私は遊つたところで少し長くやつてみて、善い経験をしたと思つて悦んで居る次第である。

松倉町五十八番地は、貧しい人々の群で一杯になつてゐる。震災前の貧民窟が、その儘貧民窟として復活してゐる。その癖、私はそこいらの子供等が、私の今迄取扱つて来た神戸の子供に比較して、実に柔順で、優れてゐるのに驚いてゐる。托児所に来る子供がさうである。私は旧安田邸にテント保育所を作つてゐるが、そこに来る子供も、私と密接な関係のある興望館托児所の子供も、両方とも実に立派な筋の善い子供である。それらは必ずしも震災前から善き家庭の子供ではないが、全体に筋の善いを見て、私は驚いてゐる。

本所の住み心地

本所は東京の大阪である。大阪と云ふところは平地で、東区のお城の近処に少し高台のある外は、坦々たる砥の如き市である。本所、深川がそれである。

気分から云へば、本所は浅草を近くに控へて居るだけ、それだけ何となしに賑やかな氣がする。それに反して、深川は何となしに淋しい。

大阪も西野田方面に行くと、全くの沼沢地で、深川に似たところがある。今度の震災で、何尺か何寸か低くなつたと云ふが、私は本所松倉町のバラックの裏溝に潮の満干を感ずるのには驚いて了つてゐる。

あの本所深川をほんとの街にするには、余程の努力が在ると思ふ。然しオランダ人であれば、さ程の努力をしないで、堤防と閘門かきととで、本所、深川位のところは完全に整理するであらうと私は思ふ。

日本人が一体に科学的に都市計画をしないのに驚いて居る。私はもう少しみんなが一生果命になつて、努力すれば善いと思ふ。本所だつて深川だつて、少し努力すれば、立派な処になることを私は疑はない。

私はシカゴ市に一ヶ月住んでみて、とても長くは住む氣になれなかつたが、本所でなら住み得ると思ふ。大阪の西野田では連も住み得ないが、本所でなら住み得る。それには色々の理由がある。

本所は緯度から云つて、シカゴの如く甚だしく寒くはない。零下二度や三度になることはあつても、それ位なことで人間は死ぬものではないし、暑いと云つても本所あたりは知れてゐる。シカゴでは咽喉に苦しみ抜いた。それで私は一ヶ月の後には飛び出して来た。

西野田の煙を私は呪はしく思ふ。あの煙には、私の肺（私は長く肺を病んだ）が堪えられさうにない。それで、私は日本の社会運動の中心を大阪に置きたいとは思つてあても今もつて大阪の工業地に住み得ないで居る。

神戸の貧民窟は、葺合新川でも、長田糸木でも、相当に家屋の改善さへすれば健康地になる。私は不思議なことには、昨年一月から六月まで眼病で寝た外は、貧民窟で病氣らしい病氣をしたことが無い。

私は樹木から云へば、関東が大好きで、関西は文明が古い關係

か、大樹は殆ど山の中や神社の境内にあるものゝ外は、凡て切り倒してある。関東来ると、あちらこちらに二百年三百年を数へる樟や、椋や、榛があるので実にうれしい。支那に行くとその感じが実に深い。上海から漢口に、漢口から北京に、北京から天津に、天津から満洲にと、私はクルクル廻つて見たが、結局禿げた支那をみたに過ぎなかつた。関西は支那のやうにならうとして居る。その点では、関東はまだく、望みがある。ところが今度は大火災の爲めに、本所の木と云ふ木が丸で焼けて了つた。その爲めにどれだけか本所の人々が淋しいだらうと思つてゐる。

小鳥も来なければ、栗鼠も居らない、況んや「まくたび」や梟が鳴くを聞くことは出来ない。私は水戸の屋敷が開放せられて、あしこに立派な公園が出来たなら、どれだけ幸福だらうかと思つたりしてゐる。

私はまた横川の堤に桜を植えたい気もする。亀井戸の堀の堤には必ず木を植えたいものである。

七羽の鶏と金網

私は本所の生活があまりに殺風景なので、友人から大きな植木鉢を買つて来た。そして樅の木を庭に植えた。

それから七羽の鶏を買つた。それは白の雑種コーチンであるが、十六円払つた。それが馬島ドクトルと田井君とが手製で網んだ針金の網の中で、毎日二つか三つの卵を産む。

今朝も、早くから黎明を近所に告げ知らせてゐた。私は阿波の田

舎で育つた関係上、どうも鶏の鳴声をきかぬと、朝が来たやうな気がしない。長い貧民窟生活で鶏とも離れ、樅の木とも離れてゐたものが、今年、震災後、樅と、鶏とに關係が出来ようとは思つてゐなかつた。

馬島ドクトルは、私の貧民窟の病院の仕事五年間も助けてくれたる親しい友である。鶏や、熊や、山羊を飼つた経験があり、金網をあむのが上手である。南向きのバラックヘドクトルがすぐ釘をうちつけて、針金を編んで行くのを見て、私も真似がしてみたくなつてやつてみた。

針金を編むことにも、なか／＼趣味があるものだ。

やがて、それが托児所の南側に七間の広さに囲はれて、白い母鶏や、雛が駆け廻るところとなつた。そこには或一種の創作の喜びがある。

忙しく救護の運動や講演に廻つて帰つて来て、金網を編む手伝ひをすると、何とも云へない趣味的気分になることが出来る。

日向で、背を太陽に向けて、灰色の針金を編み合せると、木の目が輝き、針金の精が手に浸み込むやうな気がする。

側に植えられた小さい「ひば」の木が、土の中から首だけ出して覗いてゐるやうに見える。すり硝子がキラ／＼光る。無生物もその実在を我等に物語る。

そこにはドブ溝が流れてゐるが、そんなことは私が太陽と針金とに対して持つ好意にはあまり邪魔にはならない。総て創作と建設には面白味がある。

近所のあしこ、こゝに、鑿の音、槌の音がする。私は静かに金網

を編む。

町の子供等は、植木鉢も、鶏も、雛も持つて居らないから悪太郎になるのである。本所と深川の、十一万人も集まつて居る集団バラックに、一万人近くの子供が居るが、それらの子供に、植木鉢と、花と、雛を与へてやりたい。衣服をくれる人はあつても、植木鉢をくれる人がない。米をくれる人はあつても、雛をくれる人がない。どうか、花と、植木鉢と、雛とをバラックの子供等に与へて欲しい。それが私の願である。

バラックでは、夜遅く私が外から帰つてくると、三、四十分の夜話、食堂の火鉢を囲んだり、医務室のストーブを囲んで行はれる。一日見て来た色々な変つた話に、みな打興じて時の過ぎ行くのを忘れる。うちは大家内のものだから、色々変つた面白い経験談がある。会話と云ふものも、美しい罪の無いものは芸術の一部分だといふ考へさせられる。我々のやうに芝居にも活動にも行けないものは、会話の芸術位しか味ふことが出来ない。雪が烈しく降つたこの間の夜も、十二時近くまで、寒餅を醬油につけて焼き乍ら、青年達と色々な物語をして打興じた。バラックの住居も火鉢の側は平和である。

街上の教育

私の隣の室の大講堂では、今子供が歌の節面白くダンスをしてゐる。私の家は子供の遊び場であり、勉強場であり、午前五時から来て、一日中私の家にひつついて離れない子供も居る。その子供等は

托児場に行くには少し大きく、戸籍の関係で小学校へは這入れず、一日中私の所に来て遊んでゐる。私は貧民窟に居て、子供を最も美しい芸術品と考へてゐる。先日、横浜の貧民窟である通称乞食谷戸といふところに行つた時感じたことだが、周囲の穢いのと比較して人間の顔が如何にも美しく見えた。自然は美である。然し、砂漠で見ると人間は更に美しく見える。

私は貧民窟に居て人間の美しいことをつくづく考へる。私のやうな多感な人間は、保育所で歌はれる子供の朝の祈禱歌にさへ涙を流す方だから、貧民窟の子供等の顔の美しさに就ても強く感じる。子供等のことを思ふと、どんな醜悪な貧民窟でも、少しも失望するの必要を感じなくなる。それと共に、貧民窟の子供等に対してより善き施設を望ましく思ふ。

本所の子供等は虐待せられてゐる。運動場も無く、公園も無く、僅に狭い街上で遊んでゐるのであるから、その危険なこと、風儀の悪くなることは、想像以上である。私は本所区にあの大損害のあつたことを少しも不思議とは思はぬ。安政にも幾万人かが罹災焼死し大正にも五万のものが焼死したことは、全くそこに我等があまり家を建て詰めたからである。それ程家を建て詰めた場合には、子供等が不良性を帯びてくるのが当然である。いくら学校を立派に建て、も、今日の状態ではとても子供の性格を光に導くことは出来ない。私の理想としては、小学校の教師の中から選んだ遊戯指導者を町々に置いて、放課後の児童の遊戯を指導する位にしたい。さうしたら児童は必ず善い方に向ふであらうと思ふ。

公園に運動具を設けても、指導員が居らなければ、すぐに器械を

破損させて滅茶苦茶にして丁ふ懼れがある。紐育、シカゴあたりで居る遊戯指導を私は見たが、実に立派な手並であつた。

私は街の子供等の多くのクラブを造る必要があらうと思つてゐる。私はクラブを本所松倉町で七つ作つて貰つた。それらの中には立派に戯曲を創作して、自分で練習して、それを舞台にかける尋常四、五年の少年も居る。私は不良少年の出現を、全く子供の群衆心理を指導しない為めに起ると思つてゐる。

で、之等の不良少年を善良に導かうと思へば、日夜街上に於て指導する覚悟がなくてはならぬ。私は之を街上の教育と呼んでゐる。

バラック貧民窟

私の心配してゐることは、今年の夏である。バラックはこの儘に残り、個人バラックは増加し、結局は本所、深川一円に大きな貧民窟が出現する。風に、雨に心配なバラックに、蚊帳は無く、水道と下水は不完全だし、チブスは流行するし、主人は失業状態に居るし行く可き方向を失つた民衆は悲哀のどん底に落ちるのであらうと思はれてゐる。

私の十数年の貧民窟研究の眼には、今日のバラックが全く貧民窟であることを強く考へさせられる。この状態がどうけば、子供は不良少年になり、多くの人々はヒステリーになり、犯罪が増加し、二三年の中に手もつけられぬやうになるであらう。

もとの貧民窟を打壊して了ひたいのが我々の希望であるが、当局は目醒めず、資本家は自利の外思はず、東京市は今度は市の中央に

大きな貧民窟を出現せしめることと思ふ。

それに対して、政府はもう救済事業の第二期も第三期も了つたやうに思つて居るやうであるけれども、住宅問題では、たゞ市外のサラー・マンのために、便利なところに多くの小住宅を建てたばかりで、市内の住宅問題に就ては少しも方針を立ててゐないやうである。

私はその為めに政府が、少なくともロンドン市が取つたやうな方針を以て、ビシビシやつて行かねばならぬと思ふ。今日の東京のやうに、粗雑な都会であれば、衛生上から云つても国民の損害は絶大であつて、貧民窟改良に使ふだけの金は、防疫費で数年の内に消費してはねばならぬ。

私は直に細民住宅組合を、半官、半民的に営利を離れて大規模に作つて貰ひたいのである。そして政府はその為めに一千万円位を支出すべきだと思ふ。何でもまだ米国から来る義捐金が、九百万非も残つてゐるとかである。さうすれば、その義捐金をその住宅費に廻しても善かりさうに思へるが、どんなものであらうか？

私は、財団法人を作ること善いが、組合的に進んで行くことも必要なことと思ふ。勿論、今日までの住宅組合は善いものではないが、今度はそれを改造して、営利を離れた完全なものに作り上げたものである。

大戦前ではあるが、頃のフランス・ジョセフ大帝は、五十年誕生記念に労働者住宅を建てて居る。日本でも御慶事記念に細民窟住宅を建てると善いと思ふ。

その住宅も、今日までの分は随分無理な建てかたをしてゐる。少

しも細民の心理を考へないで建てゝゐる。それで人間を入れるところとはなつてゐないで、荷物を入れるものとなつてゐる。私は細民心理をよく考へて建てなければならぬと思ふ。そのためには長屋条件などでも、一家屋だけを頭に入れなくて、細民窟一群を標準として考へる可きだと思ふ。それでなければ、貧民窟の改良は全く不可能である。

今日までの日本の細民住宅法は、全く一戸一戸を頭において考へてゐたために、随分妙なものが出来てゐる。それで、私はどうしても細民地域を全部頭に入れて考へなければならぬと思ふ。

ロンドン市は九十九万人を含む大きなイーストエンドを漸次改造して、凡てを郡部の方面に散らして、綺麗に整理して行つた。日本で、貧民窟の綺麗なのは大阪である。大阪は命令的に建築物を破壊する。

今度、私の感じたのは、横浜市のバラックの散在主義である。あしこは百五十からの集団バラックが建つてゐるのに、少しも東京で見るとやうな穢い感じを与へない。それは全く散在主義の爲めである。

私は日暮里、三河島の貧民窟に対して怖れをなしてゐると共に、今度内務省当局が監督の便宜の爲に集中主義をバラック建設に當つて取つたことを、失敗の一つと数へるものである。

『居は心を移す』と云ふことは大きな真理である。バラックに住んでゐて、私はバラックの行末を思ふから、東京のバラック貧民窟を一層心配してゐるのである。

被服廠物語

赤松さんが、私の処で働いて下さるやうになつたのは、去年の暮からである。私のバラックと同じ敷地内にある興望館托児所に働いてもらつた一ヶ月半の後、私は本所横綱町田安田邸のテント托児所に廻つて貰つた。

そのテントは私が赤十字社から貰つたものであつて、誠に立派なものである。一つは三間に七間の大テントであり、今一つは八畳敷の小さいハウスの型のテントである。ハウスの型のテントは二つを重ねて、その中に義勇保母の赤松さんと渡辺さんとに住んで貰ふことにした。

赤松さんは、その中央に更紗の美しい布で幕を作つて、実に美しい室にしつらはれた。

そこに之も赤十字社寄贈の畳寝台が二つ並べられた。話はこれからである。

赤松さんは毎晩のやうに寢床の下で、人の助けを呼ぶ声を聞くと云ふ。それが幾千人となく喚叫するので、全く驚くと云ふことである。真面目に赤松さんがそれを物語るの、みなそれを信ずるのである。

この間も、雪の朝、火の玉が立つのを見て、赤松さんは痛快がつてゐられたが、どうもあの附近は人家も淋しいし、宵は早く戸締りをするので、十一時頃になると、実に淋しい。私は河岸から安田邸に廻る度毎に、『淋しい』と云ふ感じに襲はれる。被服廠跡を歩く

と、特にその感じが深くなる。

然し私は被服廠跡を歩く度毎に、そこでの多くの死亡者が多く不注意の死であることを思ふだけに、気の毒に思ふ。安田邸から、両国の国技館の大屋根が見える。国技館は回向院の記念品である。回向院は安政の大火の回向所である。大火のある度毎に、本所は新しく回向院を一つづつ増加して行く。そこに私は、本所の考へねばならぬところがあらうと思ふのである。あの広い本所に、公園らしい公園が無く、対岸に渡るべき橋らしい橋の無いことが、災害を度重ねる理由である。

文明都市に於ては、災害は避く可からざるものである。それで、文明都市は、出来るだけこの種の災害を避ける為めに、全力を挙げ、て努力せねばならぬ。

外国では立派な都市には必ず災害防止博物館がある。ニューヨークにもライプツヒにも世界的の災害防止博物館がある。私は日本にも、少なくとも六大都市にはこの種の博物館が無くてはならぬと思ふ。

私は安政の回向院と、大正の回向院以外に、此の上回向院を建ててはならぬと思ふ。それ以後は、災害防止博物館で凡てを押切ることが出来るやうにしたいと思ふ。

私は被服廠跡にもしも建てる可き記念館があるとすれば、災害防止博物館を建て、貰ひたいと思ふ。

そこには地震に対する予防、火災に対する予防、その他自然的、人為的災厄に関する一般的な、また通俗的な陳列品を展覧して貰ひたいと思ふ。私は明治以後の日本人があまりに上調子であつて、災

厄に対する警戒を怠つたことが第一の誤謬だと思ふ。寺はもう私には沢山である。私に災厄防止の智慧を与へて貰ひたい。

バラックの昼寝

また七羽十六円の鶏が鳴いてゐる。今は朝の五時、東も白んで来た。私は遠いバラックの便所へ行つて来て、その儘ベンを走らせてゐる。

お台所からは、台湾からわざ／＼私を助ける為めに出て来て下さつた広本さんの讚美歌の音が聞えて来る。

朝は庭の露

母の涙、乾く間なく

祈ると知らずや……

広本さんとは一昨年台湾で知己になつて、親切にしてもらつたが震災と共に私の仕事を台湾で聞いて、わざ／＼出て来てくれたのである。一身上に不幸があつて後、お子さんは大学に居られるとか、卒業したとか云ふ身分でありながら、全くキリスト教的一燈園生活に這入つて、懺悔奉仕の心持ちで、家から家に手助に廻られ、遣入つた金は一文も残さず与へて了ひ、いつも讚美歌を歌ひ乍ら愉快に働いてゐてくれるのである。

台湾でもさうした生活をして居られたのであるが、今度は東京で私共の仕事の為に全部を捧げて働いて居て下さるのである。

世の中は妙なもので、目的さへ判然としまれば、随分感激的に奉仕してくれる人が多いもので、私は奉仕してくれる人手の多いのに

困つて居る位である。私の所には台湾から、北海道から、中国、九州、奥羽地方からの奉仕者が見えてゐる。私はうれしくもあり、有難くもある。

その奉仕者が、バラックの生活が無理なものだから、バタ／＼と倒れるのは閉口して了ふ。一週間前には十一人倒れて了ひ、今は五人倒れて居る。多くは扁桃腺が脹れるので一種の伝染病でもあるらしい。私等の群が倒れるところをみると、他の集団バラックの病氣はほゞ想像がつく。實際非道い時になると、集団バラックの半分以上の人が病氣で居る場合がある。或は三分の一が下痢してゐたこともあるやうである。

私にはこの夏が忍ばれる。どうか此夏は伝染病が起らないやうにと祈らざるを得ない。

感心に私は病氣をしない。勿論眼はいつでも悪い。然し、外は実に違者なもので、自分も感心してゐる。私の団体に居るものは一廻りみな病氣をした。病氣をしないのは、私と、外一人位のものである。私は忙しい為めに病氣になる機会が無いらしい。然し奉仕者の多くが、あまり興奮し過ぎて、少し疲れが廻ると、すぐ病氣になる。その点は、多年無理をして来た私などは全く慣れたものである。無理をしないから倒れることがない。長距離競争をやらうと思へば、初めから早く走つてはならない。その呼吸が実に六ヶ敷い。大体に、心に平安のある者は、病氣になつてもすぐよくなる。よくならないにしても軽い。肺病にかゝつても、病氣を苦に病まない。即ち病氣にかゝつても少しも心配しない。その点が、無理をする他の人々と多少違ふ所である。私には心配と云ふものが無い為に、臥

床すると、その隙間に眠つて了ふ。二、三分横になると、早眠つて了つてゐる。私は四時間も熟睡すれば、心理的勞作でない範囲内の仕事は十分に出来る。但し、むづかしい創作とか論文などであると、もう少し眠らなければ足りない。それで、私は昼寝をする。昼寝は私の一つの特権である。それも長いことを必要とはしない。十分でいい。三十分も眠ると、午後から晩にかけて、実に元氣百倍する。倒れたところ何処でもかまはない。そこで十分間も眠ると天下泰平である。

広本さんも台湾流の午睡をする。広本さんの長い。二時間前後する。勿論、広本さんは朝四時に起きるから、その必要がある。私は日本の家庭労働に従事してゐる人々にも午睡の時間を与へられることを要求する。心理的に云つても、午睡の必要は十分ある。昼食後は人間の精神作用が衰へてゐる時で、二、三十分の午睡は人間生活に必要である。殊に眠い時に面会するのは失敬である。それより十分位眠つて、ハッキリした氣分で愉快に話した方が、遙に双方共心持が善い。私は面会を人生藝術の一部分だと思ふから、濁つた氣分でしたくない。発育する嬰兒に午睡が必要である如く、激烈な仕事をすするものにも午睡が必要である。で、私は奉仕者の一群にも短い午睡をすすめてゐる。午睡は椅子の上でも、机に組つてでも、何処でも善い。然し最も望ましい事は、ソファの上である。但し、倦けものが一日中午睡するのでは困る。なまけものには午睡は阿片であり、激甚なる勞作をしてゐるものには午睡は宝玉である。私は坂を登らんとする荷車曳が、坂の途中まで登つて、そこに車を止めて、車の上で倒れたやうになつて、午睡をしてゐる姿を見ると、いつも

羨ましい。人生には休みが要る。休みも人生芸術の一部である。睡眠もまた私に取つては芸術である。

木賃宿の劇的分子

本所の木賃宿が復興した。私の住んでゐる松倉町二丁目から一町も行かないところに、もう三十軒位出来た。震災前に較べて清潔であつさりしてゐる。そこには大きな酒屋も復興した。めし屋も復興した。

市内には多くの無料宿泊所があり、多くのバラックがあるにかかはらず、何故木賃宿が復興するのであらうか？ それには深い理由がある。公設の独立バラックは、矢張り窮屈である。金を出した私設木賃宿では、酒も飲めれば、女も買ひに行くことが出来る。好きなもの同志なら賭博もやる。寝てゐたければ、朝遅くまで寝てゐる事も出来る。土方仲間には憲法があつて、木賃宿には決して泊らぬことにしてゐるが、それほど木賃宿は自堕落である。

私は明治四十三年頃から毎年一回づゝ東京の貧民窟を研究に來たが、その時にいつも泊るのは、深川富川町あたりの木賃宿であつた。あしこでは一晩十銭位で泊めてくれたが、その当時何処でも満員で、畳一畳に一人以上の平均で寝させられた。

震災当時、浅草北部の木賃宿は、畳一枚に平均三人位の収容をしてゐたやうであつた。そのみならず、焼けない百人屋が急に木賃宿営業を開始したのであつた。

木賃宿のノンキなことは、私も好きである。然し木賃宿の無節操

と不潔とは、怖ろしい感化を人々に与へる。私は富川町の木賃宿で受けた印象を、今も忘れることが出来ない。男女が一緒に寝て居て、公然と性的行為に出でゐるものを側では黙つて見てゐる。それは初歩である。その甚だしいものになると、言葉に云ひ尽せない多くのことが行はれるのである。

震災前、靈岸小学校の先生達が木賃宿から通学する児童の特異なる生活状態を發表してゐられたが、それは実に驚く可きものであつた。彼等は南京虫と虱とに苦しめられ、生活難になやみ、普通のもののが想像するに堪えない程の困苦を嘗めて居るのであつた。

英国の法律では、早くより、十三才以下の児童は木賃宿に宿泊すべからずといふことになつてゐる。木賃宿に児童を宿泊せしめることは、釜の中で子供をゆでるやうなものである。私は震災地の木賃宿が復興すると共に、また多くの児童のために同情を禁ずることが出来ない。

本所横川の木賃宿は一晩三十銭見当である。勿論蒲団が十分である可き筈はない。それで木賃宿の人々は、酒を無闇に飲んで寒さを忘れんとする。このあたりの消息は全く常人の理解に苦しむ点であるが、誠に同情に堪えない。

然し木賃宿に落ちたが最後、実にノンキなものであつて、そこから出て行かうと努力するものは実に少ない。五年でも十年でも、そこに居る。私は木賃宿に十四年も十五年も居る独身者を数多く知つてゐる。その点は東京も、大阪も、神戸も、みな同じ性質を帯びてゐる。たゞ、東京は、這ひ上り得る力をもつものが比較的多く木賃宿に泊つてゐるといふだけである。然しそれも幾人であるか、私は

さう多くは無いと思つてゐる。

「ゴルキーは木貨宿の生活を『ドン底』だといったが、正しくさうであると思つてゐる。貧民窟は気の毒である。然し彼等が定住してゐるだけそれだけ、安定もあれば明るさもある。木貨宿と来ては、いつも浮動してゐるために、不安な空気がいつも一杯になつてゐる。貧民窟の住民すら『宿屋もの』といつて木貨宿のものを軽蔑するのを見ても、如何に木貨宿ものが信用が無いかがわかる。実際、木貨宿に熟練職工は殆ど居ない。八、九分通りまでは不熟練労働者である。で、雨の二、三日も降れば、もう食へない連中が多いのである。

本所横川の木貨宿横丁を黄昏に歩くと、劇的光景が眼の前に浮ぶ。そこらは芝居の書割に出て来るものと少しも変らない。酒屋の表には酒類が幾十か並べられ、小倉織の暖簾が人の顔の見えない程度に下つてゐる。内は満員である。酔つぱらつた連中が、科白もどきで気焰をあげてゐる。彼等は芝居をしてゐるのである。芝居の真似事をしてゐるのである。その中に舞台が廻つて行く。彼等は一生そこで芝居をしてゐる。それを思ふと、私の頬を暗涙が走る。私は泣きつゝ急ぎ足でそこを通り過ぎる。

貧民窟の固形化

大災厄の度毎に、何か新しい救済運動が起る。濃尾の大震災の時には孤児院が起り、孤児院の外に社会事業は無いかの如く考へられた。その後、社会事業は益々發達して立派に組織立てられるやうに

なつた。ところが、今日では社会的に一般の智識が發達したために孤児院に子供を送らなくとも、みな家庭に引取つてくれる位にまで進んだ。

今度の災厄で、もし發達すべきものがあるならば、それはセトルメント・ウオークである。日本では、セトルメントのことを隣保事業といふ奇妙な名称で呼んでゐるが、それは教育あるものが貧民窟、或は労働者住宅の集團地に移住して、そこで人格的接觸を保ち、その地域の向上の為に努力するのである。

それは人格運動であり、社会教育運動である。私は日本で今日最も必要なものは、この運動であると思つてゐる。

セトルメントは英のフレデリック・デニソン・マウリスが始めた労働教育を創始とし、明治十七年に初めてロンドンのホワイトチャペルの貧民窟に建てられたトインビー・ホールを会館の最初のものとする。

私は貧乏な中から、この種類の仕事の為めに少しばかり尽して来た。セトルメント・ウオークの仕事の中で最も困難なのは、ドン底の反社会性の人々に接する工夫である。それは勿論一生の仕事である。貧しい人々の間には信仰心も衰へて居り、独立心も欠けて居り、生理的に心理的に欠乏の多い人々が多いだけに救済するのも容易でない。私は白状するが、私は多少の救済運動には努力して来たものの、それが、その地方の向上にどれだけ資したか問題だと思つてゐる。個人として尽し得る点は實に僅である。私は少数のものに尽した。然し私の組織化運動の為に捧げた微力な努力はみな酬あられたにか、はらず、貧民窟に捧げた努力は僅かにしか酬あられて居

らぬ。といつて、私はそれに就て失望すべき理由は持たぬ。

然し労働組合と同じやうに、真の救済は社会教化によらなければならぬ。貧民窟の救済も組織化によらなければ駄目である。即ち相互扶助によらなければならぬ。で、私は貧民救済の方策を個人主義的に行かないで組織的に行くことに改めた。即ち私は不熟労働者なり、内職労働者なりが、自力で立ち得るやうに援助したいと思つてゐる。セトルメント・ウオークがその点に注意しないで、たと救済運動をするのであれば失敗に終るであらうと私は思ふ。

セトルメント・ウオークは革命運動の援助にはならない。

セトルメント・ウオークは、必ずしも凡ての社会事業の根本的解決策ではない。然しセトルメント・ウオークなしには、救済運動も防貧運動も出来ない。そのみならず、セトルメント・ウオークは、階級化した社会を、完全にとは行か無いまでも、緩和し、融和し、中和する大きな血管である。それは動脈作用ではない。然し確に静脈作用はするのである。

私はセトルメント・ウオークに多年従事して、自分がいと微少き社会教育家であることを自任してゐる。自分としては静脈作用の一毛細管の任務を果たさへすれば善いと思つてゐる。

「今日は震災救済の反動時代ですよ」と、昨日姉崎博士に会つた時に、博士はそんなことを云つてゐられた。

みな救護に疲れて、もう益少しで、バタ／＼倒れて了ふ。そして此儘捨てて置けば、東京全市が恐る可き貧民窟に化してしまふことを氣附かずに居る。

私はこの貧民窟の固形化を恐れてゐる。その測候所として、その

社会教化中心地として、セトルメントの活潑なるものが東京には望ましいのである。私は帝国大学の学生が、末弘博士を中心として、六十名ほどセトルメントの爲めに團結せられたことを実にうれしく思つてゐる。彼等の前途を祝福せざるを得ない。それはたゞ東京の幸福ばかりではない。日本の幸福である。

復興気分

今年の冬が暖かであつたのは全く天恵であつた。雪は一度しか降らなかつた。激烈に寒いと云ふのも少なかつた。それがために思つたやうに凍死する者もなく、夜具防寒具類の少なかつた割に寒さを訴へるものが少なかつた。私はこれを心から神と関西の人々に感謝してゐる。

これが若しその反対であつたならばどれだけ困つたであらう。赤ん坊は多く死んだであらう。腸カタルは多くなつたであらう。私はキリストが「終りの日の来ぬやう祈れ」と言つたのを福音書に読んで、なる程と考へてゐたが、暖国の冬の苦難に感謝を禁ずるを得なかつた。

私が十月十九日に本所松倉町に四つの TENT を張つた時には、まだ被服廠跡から松倉町にかけては何も見ざるべきものが無かつた。夕べのお勤めの太鼓の連続的な音響が、被服廠跡から松倉町まで一直線に聞えた。本所は被害が多かつただけ復興も遅れた。然し今日では、街に面した方だけは兎に角建て詰つて了つた。白木の香も景氣よく、貧乏臭かつた本所に取つては、全部一度に建換へた今日の姿

が、あの灰色をした震災前に比較してひとしほ景気よく見える。駒込あたりをオートバイで走る心持ちよりか、どちらかと云へば、本所緑町筋をまつしぐらに走る方が更に活気付いてゐる。

九段の上に立つ。そこから神田、京橋、日本橋一円を眺めると、先づ第一に眼につくのは神保町筋の電燈の輝きである。東京の空に煤煙が絶えたと共に、電燈の輝きが一層美しくなり、街は復興のイルミネーションを施してあるやうである。私は九段から神保町に降りて来る度に神に感謝する——神がそんなに速に東京を復興せしめ給ひしことを。

然し、私はその復興を必ずしも心より悦ぶものではない。私に取つて、酒屋の復興や、女郎屋の復興や、煙草屋の復興や、宝石屋の復興は少しも有難くない。たと感官を悦ばせる表面文化の復興に、私がなんで悦ぶことが出来ようぞ！

これ等の感官文化に景気不景気があつたところで、それは凡て外部に属するものである。それよりも根本的なものが復興して欲しい。凡てが反動的となり、摺衷思想が復興し、日本千年の大計を建てることを忘れて、終対無限の道を捨て、良心と自由を思はないで肉慾に沈面したところで、何の幸福があるものか！ 火が凡てを焼いてくれた時に、心には何が映つたか？ そこに神の声が聞かれるのだ。

その時には簡易生活のうれしさと、より自由なる生活の悦びと、互助と、意識せる愛の愉快とを感じたのではなかつたか。

それが火の気が消え去ると共に、またその上に塵埃を積み上げ、必要でもない多くのものを生産し、消費し、交換して、景気！ 景

気！ と云ふ。私はそれらの凡ての生産を否定する。それ等の浪費は少しも人生を幸福ならしむるものではない。

無限へ！ 無限へ！ そんな皮相な感官的生産に何の人生目的があるものか！ 我等にもう少し人生目的をハッキリ見せてくれ！ それが無ければ復興には何の意味も無いではないか！

火と共に凡ての不浄をかなぐり捨てよ！ 不浄なる生産、不浄なる消費、そして不浄なる交換を！ そして魂の高挙と、魂の自由のために、神と愛とを与へてくれ！ 本所はたと煙突の再興を要求しない。魂の復興を要求する。外債募集が成功した。また日本に空景気が来る。私はそれを恐れる。私の魂を泣かしてくれるな。空景気よ、神と本質に帰るがよい。私はそのために生活の單純さを要求する。私は応接間の広いものを要求しない。二枚の着物を要求しない。私は学問がしたい。宇宙の構造が知りたい。美しくなりたい。世界の悪を修正したい。その大野心の為に、私は乱れ狂はんとする感官の世界の誘惑を退ける。

東京の復興をたと銀座の復興で了らしめないでくれ！ 魂——その本質的なものの復興たらしめてくれ。

(一九二四・二・五より一七にかけて)